

No	ページ	行等	正	誤	備考
1	7 図2.1-1		<p>図2.1-1 差し替え(赤字部分を修正)</p>	<p>→→→→→ CLT パネル工法建築物の選択可能ルート →→→→→ その他の木造建築物の選択可能ルート</p> <p>国土交通大臣認定</p> <p>※ CLT パネル工法告示第七の耐久性等関係規定は適用される。</p> <p>令46条2項(壁量計算除外) →昭62告示1898号 使用可能材料 →昭62告示1899号 第一号 令82条 第二号 令82条の2(層間変形角)等 第三号 令82条の6(偏心率)等 構造計算ルート</p> <p>その他の令第3章3節の仕様書的规定</p> <p>END</p> <p>令46条4項(壁量計算) 壁量計算ルート</p> <p>CLT パネル工法告示 平28 国交告第611号</p> <p>※本告示第十における呼称は「令第82条各号及び同令第82条の4に定めるところによる構造計算」である。</p>	8/2追加

No	ページ	行等	正						誤						備考		
			規定の概要	時刻歴	限耐	ルート3		ルート2 ^{※1}		ルート1	規定の概要	時刻歴	限耐	ルート3		ルート2 ^{※1}	
Ds<0.75	Ds=0.75	Rf<2.5				Rf=2.5	Ds<0.75	Ds=0.75	Rf<2.5					Rf=2.5			
2	11	表2.2.1-1 品質基準告示 第一第二十三号の行	CLTを構造材として用いる場合には、JASまたは認定に適合すること ※3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	12	表2.2.1-1 欄外	○：適用される ×：適用できない ※1 Rf：第九第二号による応力割増し係数 ※2 △-◇は「△層◇プライ」を表す ※3 品質基準告示（平12建告第1446号）と同等以上の品質を確認														
4	64	上から12行目 (下側の枠囲みの中の2行目)	$F_c = 0.75 \sigma_{c_oml} \frac{A_A}{A_0}$						$F_c = \sigma_{c_oml} \frac{A_A}{A_0} \times 0.75$								9/1追加
5	67	上から9行目 (下側の枠囲みの中の3行目)	$F_t = 0.75 \sigma_{t_oml} \frac{A_A}{A_0}$						$F_t = \sigma_{t_oml} \frac{A_A}{A_0} \times 0.75$								9/1追加
6	70	上から6行目	$F_b = 0.4875 \sigma_{b_oml} \frac{I_A}{I_0}$						$F_b = \sigma_{b_oml} \frac{I_A}{I_0} \times 0.4875$								9/1追加
7	70	上から7行目	$F_b = 0.6 \sigma_{b_oml} \frac{A_A}{A_0}$						$F_b = \sigma_{b_oml} \frac{A_A}{A_0} \times 0.6$								9/1追加
8	70	下から10~11行目	この場合において、強軸方向の基準強度を計算する場合における直交層に使用するラミナの曲げヤング係数及び弱軸方向の基準強度を計算する場合における平行層に使用するラミナの曲げヤング係数は0とする。						この場合において、強軸方向の基準強度を計算する場合にあっては直交層、弱軸方向の基準強度を計算する場合にあっては平行層に使用するラミナの曲げヤング係数は0とする。								9/1追加
9	76	下から11~12行目 (枠囲み中の表の(二)幅方向の式)	$F_s = \min \left\{ \frac{1.5bn_{ca}}{t_{gross} \left\{ \left(1 - \frac{1}{m^2} \right) + \frac{16}{3} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m^2} \right) \right\}}, 2.7 \right\}$						$F_s = \min \left\{ \frac{1.5bn_{ca}}{t_{gross} \times \left\{ \left(1 - \frac{1}{m^2} \right) + \frac{16}{3} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m^2} \right) \right\}}, 2.7 \right\}$								9/1追加
10	79	下から13行目 (枠囲みの中の1行目)	樹種に応じて、それぞれ次の表の数値とする。						樹種に応じてそれぞれ次の表の数値とする。								9/1追加
11	84	8行目 (表5.3-2の下)	第十号						第十								8/2追加
12	155	下から13行目	$F_c = 0.75 \sigma_{c_oml} \frac{A_A}{A_0}$						$F_c = \sigma_{c_oml} \frac{A_A}{A_0} \times 0.75$								9/1追加
13	156	上から20行目	$F_t = 0.75 \sigma_{t_oml} \frac{A_A}{A_0}$						$F_t = \sigma_{t_oml} \frac{A_A}{A_0} \times 0.75$								9/1追加

No	ページ	行等	正	誤	備考
14	157	上から6行目	$F_b = 0.4875 \sigma_{b_oml} \frac{I_A}{I_0}$	$F_b = \sigma_{b_oml} \frac{I_A}{I_0} \times 0.4875$	9/1追加
15	157	上から7行目	$F_b = 0.6 \sigma_{b_oml} \frac{A_A}{A_0}$	$F_b = \sigma_{b_oml} \frac{A_A}{A_0} \times 0.6$	9/1追加
16	157	下から10～11行目	この場合において、強軸方向の基準強度を計算する場合における直交層に使用するラミナの曲げヤング係数及び弱軸方向の基準強度を計算する場合における平行層に使用するラミナの曲げヤング係数は0とする。	この場合において、強軸方向の基準強度を計算する場合にあっては直交層、弱軸方向の基準強度を計算する場合にあっては平行層に使用するラミナの曲げヤング係数は0とする。	9/1追加
17	158	上から7～8行目	$F_s = \min \left\{ \frac{1.5bn_{ca}}{t_{gross} \left\{ \left(1 - \frac{1}{m^2} \right) + \frac{16}{3} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m^2} \right) \right\}}, 2.7 \right\}$	$F_s = \min \left\{ \frac{2.7}{t_{gross} \times \left\{ \left(1 - \frac{1}{m^2} \right) + \frac{16}{3} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m^2} \right) \right\}}, \frac{1.5bn_{ca}}{t_{gross} \times \left\{ \left(1 - \frac{1}{m^2} \right) + \frac{16}{3} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m^2} \right) \right\}} \right\}$	9/1追加
18	158	下から12行目	樹種に応じて、それぞれ次の表の数値とする。	樹種に応じてそれぞれ次の表の数値とする。	9/1追加
19	168	下から14行目	(構造用集成材を使用する場合にあってはラミナの厚さが21mm以上の場合に限り、	(構造用集成材を使用する場合にあってはラミナの厚さが20mm以上の場合に限り、	9/1追加
20	169	上から19行目	又は次に掲げる基準に適合する	又は次に掲げる基準に適合する	9/1追加